

## 選択的介護モデル事業の実施状況について

### 1. 平成30年度モデルの実施状況について

#### (1) 利用者数の推移（延べ契約件数）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度※
利用者数	19	36	38

※令和2年度は5月末現在

※サービス区分ごとの内訳（令和2年度）は、居宅内26件、居宅外9件、見守り等10件（同一の利用者が複数のサービス区分を利用しているケースがあるため、各区分の合計は上記の契約件数とは一致しない）

#### (2) 効果等検証について

平成31年1月に短期的な効果等検証（アンケート調査）を行ったが、より長期的な利用者状況等を確認するため、あらためて調査を実施した（実施期間：令和2年2月～3月）。

##### ○調査の概要

調査名	対象者	回収数	実施方法
①事業者向けアンケート	区内の選択的介護サービス提供事業者	10件（対象事業者数11者）	アンケート郵送調査
②ケアマネジャー向けアンケート	令和2年2月現在、区内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー	173件（対象者数239名）	アンケート郵送調査
③利用者向け調査	選択的介護サービス利用者で令和2年2月現在6か月以上継続してサービスを利用している方	9件（本人5名、ご家族等4名）	ケアマネジャーによる聞き取り調査
④事業者向けヒアリング	選択的介護提供事業者のうち、選択的介護利用者が比較的多い事業者	4事業者	ヒアリング調査※
⑤ケアマネジャー向けヒアリング	選択的介護利用者を多く担当しているケアマネジャー	3名	ヒアリング調査※

※ヒアリング調査はグループインタビュー形式で実施

##### ○調査を踏まえた成果・課題

###### 【成果】

- 選択的介護の提供が利用者信頼関係の構築につながり、介護保険サービスでの質や効率の向上がみられた
- 利用者の満足度は高く、選択的介護が在宅生活の継続に寄与できたケースもあった
- 選択的介護をケアプランへ位置づけることで情報共有や多職種間での連携が円滑になった
- 選択的介護について検討を行うことがケアマネジャー自身の意識変化にもつながった 等

###### 【課題】

- 選択的介護を利用者に提案できるケアマネジャーの拡大
- 選択的介護サービス提供事業者の拡大、事務負担の軽減
- 選択的介護実施地域の拡大
- 更なる広報周知や理解促進 等

(3) 今後の実施内容・進め方

○報告書の公表、豊島区内外への周知

- ・モデル事業で得られた成果やノウハウをまとめた報告書（中間のまとめ）を6月末に公表し、区外の市区町村へ配布等により他地域への普及促進を図る。

○令和3年度以降（モデル事業終了後）の実施方針等の検討と整理

- ・モデル事業終了後におけるサービス提供継続について、方針や支援方法等を具体的に検討し、整理する。

2. 令和元年度モデルの実施状況について

(1) 利用者数の推移（延べ契約件数）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度※
利用者数	－	6	8

※令和2年度は5月末現在

※サービス区分の内訳は、全て「IoT機器等を活用した在宅支援」（「デイサービスでの健康・療養支援」は0件）

(2) 効果等検証について

短期的な効果等検証を行うため、サービス提供事業者に対してヒアリングを実施した（実施期間：令和2年4月～5月）。

○ヒアリングでの意見・課題

【意見】

- 利用者の生活状況のデータを踏まえて提供サービスの内容を見直したことで、生活リズムの安定につながった
- ケアマネジャーの月1回のモニタリング訪問では捉えきれない、短期間での急激な状態の変化等を把握できる
- 利用者の生活状況を外部からデータで確認できることが家族の安心につながっている 等

【課題】

- 利用者の生活実態はセンシングデータのみでは把握できない要素も多く、データの精度にも改善の余地がある
- 好事例を収集して検証等を進めるためには一定数の利用者確保が重要
- 関心があるケアマネジャーは限定的でサービス導入への負担感も小さくないため、何らかの動機づけが必要 等

(3) 今後の実施内容・進め方

○効果等検証のための課題の把握及び対応策の検討

- ・効果等の把握・検証において留意すべき課題を整理し、対応策を検討したうえで適切な効果等検証を実施する。

○多職種での意見交換の実施

- ・モデル事業のデータがある程度確保できた時点で、多職種連携に向けたデータの活用の可能性、有用性等について検討する。